

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	岩手県立大学	整理番号	1-1-012
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	高度専門教育と人間教育の一体化 ～一年次からの講座配属を行う『岩手県立大学方式』の実践～		
申請単位	学部単位		
申請担当者	曾我 正和		
<p>(取組の概要)</p> <p>近年マスプロ的の大学が送り出す卒業生にたいしては、「専門レベルが不足」「社会人として他者とコミュニケーションできない」という不満が聞かれる。当学部では「4年生卒業時には即戦力」「ITのプロとして社会に貢献する志をもつ」という目標を掲げている。すなわち高度専門教育と人間教育を同時に一体化して達成する教育を計画し実践してきた。</p> <p>教育を表面的な講義の単位数で測るような考え方では、両者を同時に達成することは至難にも思われるが、この両者は別角度から捉えるべきものである。我々は、人間教育として実績が認められている松下村塾や旧制高校の全寮制がもつ要因を分析し、高度専門教育として実績がある MIT やスタンフォードの方法を調査した。その結果我々が選んだ解決策が、「1年次からの講座配属を行う小講座制」である。これは1年次から座席とUNIXワークステーションを学生一人ずつに与え、学生の部屋に隣接して担当教員の部屋を配置して、生活時間の大半を教員と学生が密着して過ごす方法である。</p> <p>成果として開学6年目の昨年度の4年生による学会発表は70件を超え、春の情報処理学会全国大会での学生奨励賞受賞者は8件を数えた。この数は全大学中1位であった。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>開学前の構想からスタートし、6年間継続的な取組をしている本方式は、「入学から卒業までの一貫した小講座制」と「複数学年の学生が同居するシステム」を軸に、高度専門教育と人間教育の一体化を進める姿勢に顕著な特色があります。1年次からの小講座制は講座内で学生が縦・横の交流を図ることによって人間的な成長と組織学習の実現を可能とし、学部生の学会発表やアンケート調査でその有効性が認められます。1～4年次生が同居するシステムは、従来から年次に区切られていた教育システムを抜本的に革新する意味を持つもので、学生のコミュニケーション能力、協調性、社会性を高める教育システムとして、他大学にも参考になる事例です。</p> <p>本取組による学生の付加価値化の確認には、卒業生の社会における評価が待たれますが、「実学実践の拠点から21世紀をリードする人材養成」という建学理念の基に、社会から求められる教育を更に推進していくことを期待します。</p>			